

海と陸と空の出会う場所 ～東シナ海のダイナミクス～

《講演題目》

東シナ海のプロフィール

上原 克人 (九州大学応用力学研究所 助教)

東シナ海の四季

岡田 良平 (福岡管区气象台 海洋情報調整官)

魚が生まれ育つ場所、東シナ海

西内 耕 (西海区水産研究所 生態系変動グループ長)

《司会進行》

岸 真弓 (気象予報士・キャスター)

参加
無料

第3回 海の科学講座 in九州

2016年 8月7日 (日) 13:00～16:00 (開場12:30)

会場:九州大学西新プラザ大会議室 (福岡市早良区西新2-16-23)

問い合わせ:092-725-3613 (福岡管区气象台 地球環境・海洋課)

共催:福岡管区气象台、九州大学応用力学研究所、西海区水産研究所

後援:福岡県教育委員会、福岡市教育委員会

海の科学講座への招待

九州の西に広がる東シナ海。この海を、太平洋の片隅にある身近な海の名前にすぎないと思っている方も多いかも知れません。しかしこの東シナ海こそ、世界の海の豊かさを支えていると言っても過言ではないほど、世界でも有数の豊かでダイナミックな海なのです。

今回の講座では東シナ海にスポットを当て、普段知る機会の少ない海の姿を、これまで長い時間をかけて蓄えてきた観測データや最新の研究成果を基に、海のスペシャリストたちが高校生など若い人をはじめ一般市民の方々にわかりやすく紹介します。未知の海に興味を惹かれる方、なんだかわからないけどおもしろそうだな、と思った方、この機会にぜひ参加してみてください。

講座内容・講師紹介

『東シナ海のプロフィール』

講師：上原克人（九州大学応用力学研究所 助教）

「大陸棚」という言葉、最近よく耳にしますし、遠浅で魚が多く捕れる場所としてかつて学ばれた方もおられると思います。東シナ海は日本近海で最大の、世界でも6番目の面積を持つ大陸棚が広がる海域です。水深が浅く、外洋に開けていることから、同程度の広さの日本海とは異なる特徴を示しています。海洋全体からすると、わずか0.3%の面積を占めるに過ぎませんが、地球上で陸から海へ運ばれる土砂の約10%が注ぎ込む、世界でも非常に特殊な、そして大切な海域でもあります。東シナ海がどのような海なのか、世界の他海域と比較しつつ、その生い立ちから紹介します。



『東シナ海の四季』

講師：岡田良平（福岡管区気象台 海洋情報調整官）

東シナ海では、大河を通じて大陸から流れ込む水と、北太平洋を広く廻る海流の一部である黒潮の水がぶつかり合っています。それぞれの水が交ざり、作用し合うことで、世界的に豊かな漁場を形成しています。そんな東シナ海にも四季の変化があります。しかしそれは私たちが陸上で感じている春夏秋冬とは異なり、海に出て海中を探ることで初めてわかる、海独特の四季です。

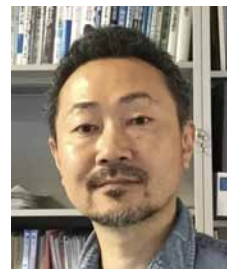
講演では、これまで約50年にわたって蓄えられた東シナ海の観測データから明らかになった、東シナ海の四季のサイクル、そして近年明らかになりつつある地球温暖化の影響について、クイズを交えながらわかりやすく解説します。



『魚が生まれ育つ場所、東シナ海』

講師：西内 耕（西海区水産研究所 生態系変動グループ長）

東シナ海に調査船で向かい、プランクトンネットを曳くと、アジやサバなど多くの浮魚類の卵や仔稚魚（魚の子供）が採集されます。そして卵・仔稚魚を採集した時期や場所と海流などの関係を調べると、東シナ海で産まれた仔稚魚は、成長しながら日本近海へと運ばれて漁業の対象となることがわかってきました。東シナ海は日本近海の豊かな漁業を支えているのです。では、なぜ多くの浮魚類は東シナ海で生まれ育つのでしょうか。その謎について、東シナ海の海洋環境や仔稚魚の餌環境など最新の研究成果も交えつつ紹介いたします。



司会進行



岸真弓（気象予報士・気象キャスター）

プロフィール：群馬県出身。学習院大学文学部卒業。気象予報士。日本気象協会に所属した後独立。現在、福岡と広島で気象キャスターとして、テレビやラジオに出演中。また、野菜ソムリエ等の資格を活かし、気象と農業を結びつけ、講演活動なども多数おこなっている。

問い合わせ：092-725-3613（福岡管区気象台 地球環境・海洋課）
共催：福岡管区気象台、九州大学応用力学研究所、西海区水産研究所
後援：福岡県教育委員会、福岡市教育委員会
ホームページ：<http://www.riam.kyushu-u.ac.jp/ocd/umikouza/index.htm>



地下鉄西新駅7番出口より徒歩約10分
駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。